

公益財団法人 檜の芽会 御中

令和 6 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】		① 作成日	令和 7 年 4 月 25 日
② 法人・団体名	特定非営利活動法人 Seeds of Tomorrow (旧 全国夜間中学ネット)		
③団体所在地 (都道府県・市町村名まで)	〒6540113 神戸市須磨区緑ヶ丘 2 丁目 2 1 番 1 0 号		
④責任者氏名	宮崎 仁史	(役職名等)	理事長
⑤担当者氏名	吉永 一郎	(役職名等)	副理事長

【奨学活動の概要】					
⑥助成交付決定番号	R06-003	⑦助成金額	50 万円	⑧申請カテゴリー	C
⑨奨学活動名	学習の機会に恵まれない子供たちの夢をかなえたい				
⑩主な実施場所名・ 及びその住所	兵庫県神戸市 神戸市東灘区甲南町 3 丁目 9 - 1 7 有明ビル 2 階				

⑪活動内容とその成果の概要（詳細は【様式 3 - 2】又は別添資料にて記載・説明ください。）

子供たちに無料の教育機会を提供し、彼らが自分自身の可能性を最大限に引き出すことを支援できた。無料の学習塾は、経済的な理由で塾に通えない子供たちに、無償で学びの場を提供すること、居場所を超えた学習の遅れを取り戻す必要不可欠な居場所とすることができた。また不登校生の学習機会の場として認知され神戸市教育委員会とも連携し出席認定を受けることのできる場と認定いただいた。

⑫奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式 3 - 2 等でご報告願います。）

支援対象	延べ人数 (A : 人)	平均時間 (B : 時間)	活動量 (A x B)	備考・補足・計算根拠等
中学生等	5400	2	10800	
高校生等				
大学生等	1800	2	3600	
学習支援員等				
その他				
合 計			14400	

⑬その他の定量的な数値（任意）

令和 6 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：学習の機会に恵まれない子供たちの夢をかなえたい

法人・団体名：特定非営利活動法人 Seeds of Tomorrow

(旧 全国夜間中学ネット)

作成者 氏名：宮崎 仁史

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

取り組み課題

経済格差による教育格差の社会背景については、親の経済力が子どもの学力に影響を与えることがあるとされています。また、学校外教育においても、公立中学校に通う子どもがいる世帯の教育費の内訳の平均を見ると 62.8%が『学校外活動費』であることから、経済格差と教育格差が関連している背景には、特に「学校外教育」の存在があるとされています。また、出身家庭の社会経済的地位などの「生まれ」によって学力や最終学歴などの教育成果に差がある傾向の「教育格差」と、生まれ育った環境によって、学力や学歴などの教育成果に違いがあるという背景が課題と考えます。

目的・実施内容

1 神戸市の不登校小中学生が 4700 名ほどに上る状況のなか、第 3 の子供の居場所として、不登校生の学力保障と自己肯定感、有用感をはぐくみ将来に向けての夢や希望を醸成するとともにソーシャルスキルの獲得支援が目的。

2 神戸市の中学 3 年生の通塾率は 80%と高い。一方で経済理由から通塾できない子供たちも存在する。夜間の無料塾を開設し学力を補充し学習習慣を身につけさせ自己有用感、肯定感を持たせ将来への夢や希望を持たせられるように支援する。

2. 実施した奨学活動の詳細

1 東灘教室（東灘区甲南町 3 丁目 みんなラボ教室）

・経済困窮家庭の学習支援 1 か月 1 2 回実施 年間開催は 120 日。延べ参加者 2100 名。

・不登校中学生学習支援 年間開催は 120 日。延べ参加者 300 名。

2 長田教室（長田公民館）

・経済困窮家庭の学習支援 1 か月 12 回実施 年間開催は 120 日。延べ参加者 2800 名。

・不登校中学生学習支援 年間開催を 120 日とする 延べ参加者 200 名。



両教室ともに公立高校への進学者目標を 95%としている。

・周知方法や協力いただいた関係者 地元中学校へのチラシ配布、神戸市教育委員会
神戸学習支援協議会 全国学習支援協議会

3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

活動から得られたもの

経済困窮家庭の子どもたちの学習に対する意欲があるものの、なかなか学ぶ場が提供されていないことがわかった。また情報も少ないことが分かった。市の教育委員会としても解決の糸口をも作っているが、糸口が見つけられないでいる。行政分野では、当法人の活動分野は「福祉」として扱われ「教育」という位置づけではないところで、教育委員会もなかなか積極的になれない課題があることが分かった。

ただ保護者や子供たちにとっては、有効な有益なプログラムであったことはアンケートからもわかる。

反省点・課題・今後の発展性

上述のように、教育委員会としては問題の所在もはっきりしているのも関わらず、地域とのかかわり方がうまくできないことを解決できなかったところが反省点としてあげられる。

1 現在民間の夜間の時間帯での学習は、不登校生の「出席扱い」は原則認められていない。(学齢期の義務教育は昼間に行うという原則のため)しかし当法人のスタッフには元公立中学校長がおり、教育委員会の視察、当該中学校長との面談により「出席扱い」としてもらっている。このケースは全国的な流れとなりつつある。

2 平成20年頃から「学力をお金で買う」という風潮を感じるようになった。教育を経済用語で語ることも多くなってきた。「努力に見合う成果」や「費用対効果」が教育現場でも求められるようになってきた。しかし教育の成果は、費用には換算できないし、成果もすぐに出るわけではない。

また不登校生は2024年度全国で36万人と発表され、神戸市でも全国平均を上回る不登校生がいる。当法人の事業は、神戸市内3か所(東灘教室と長田2教室)を展開し、3か所で計50名の中学生を週3回、年間約100日にわたって学習支援を行う。(延べ参加中学生は5400名)

指導者は、当法人へ登録している近隣の大学生40名が担当する。1回当たり平均12名の大学生が学習支援を行う。参加資格は厳密には問わないが、通塾できていない中学生が対象なので、結果的に経済困窮家庭の子供たちになる。子供たちの達成目標は「公立高校への進学」。そのことにより自己有用感や効力感を高めることにつながると考えている。ひいては貧困の連鎖の解消に役立つと確信している。昨年度同事業により、95%の公立高校進学を達成できた。

実現可能性は高いと考える。現在も不登校生が8名在籍しているが、教育委員会と協働しながら「出席扱い」の認定を受けており、このつ例は少しずつ地域に周知されてきている。

現在無料の学習支援のため、事業収入はないが、今後自軽度発達障害の子供の学習特化型の放課後デイサービスを併設し収益を上げながら、現在の無料塾の運営を進めたい。また当法人の支援個人スポンサーが存在し毎年の寄付金をいただいております、自治体助成、民間助成を資金源としている。

4. 本活動におけるエピソード、思い、感想、等(任意)

中学生の感想より

- 1 勉強に対してマイナスのイメージしかなかったけれど、わかることがこんなに楽しいと感じることができてよかった。
- 2 勉強が苦手だったけれど、勉強の仕方や集中の仕方のコツを教えてもらった。ありがとうございました。
- 3 友達が行ってみよう誘ってくれました。家ではなかなか勉強できないけどここでならなぜか勉強できる。ありがとうございました。
- 4 成績上がったよ。はじめてです。目標の高校に進学できました。ありがとうございます。